

## 人権教育に関する特色ある実践事例

基準の観点	学校全体として人権尊重の視点に立った学校づくりが組織的かつ効果的に進められている実践事例
-------	--

### 1. 基本情報

#### ○都道府県名及び市町村名

山口県長門市

#### ○学校名

長門市立浅田小学校

#### ○学校のURL

<http://member.hot-cha.tv/~asadasho/>

### 2. 学校紹介

#### ○学級数

【通常学級】全学年各1学級、【特別支援学級】2学級、【合計】8学級

#### ○児童生徒数

【全児童数】100人（平成25年12月2日現在）  
（内訳：1年生15人、2年生11人、3年生16人、4年生23人、  
5年生14人、6年生21人）

#### ○学校の教育目標、人権教育に関する目標など

##### 【学校の教育目標】

自ら学び、よりよい生活をつくる心身ともに健やかな浅田っ子の育成

（目指す学校像）

- ・魅力ある学校
- ・信頼される学校
- ・認め合い、支え合い、学び合いのある学校

（目指す児童像）

- ・かしこい子 … 主体的・意欲的に学ぶ子
- ・やさしい子 … 友達と協働・共生できる子
- ・たくましい子… 目標をもち粘り強く頑張る子

##### 【研究主題】

つなげる学力・つながる仲間づくりで 実践的な人権感覚をもった児童の育成  
～認め合い、互いを大切にするコミュニケーション活動を通して～

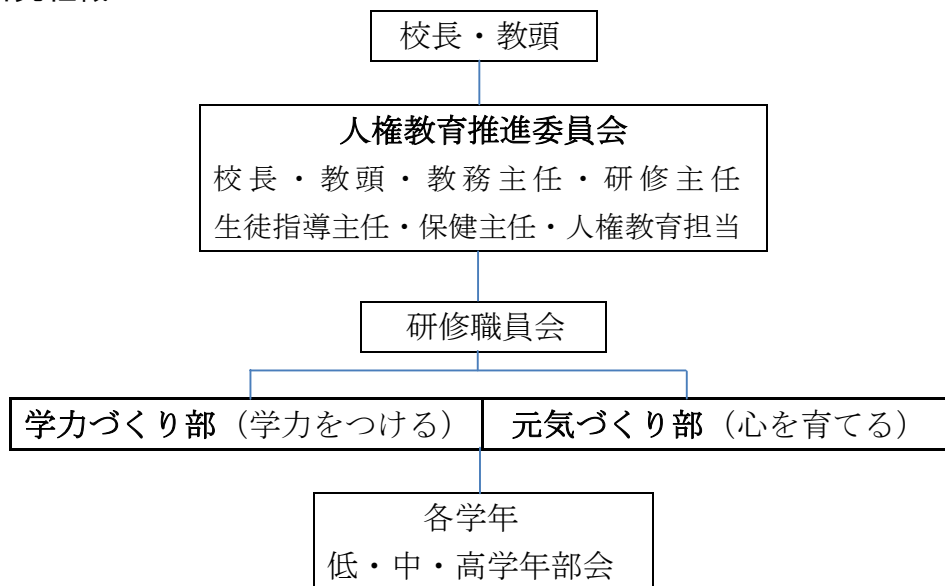
##### 【研究仮説】

学校のあらゆる活動において、児童たちが互いのよさを認め合い、振り返りを大切にできるようなコミュニケーション活動を仕組めば、温かい人間関係が育ち、主体的に学んでいく実践的な人権感覚を身に付けた児童を育成できるだろう。

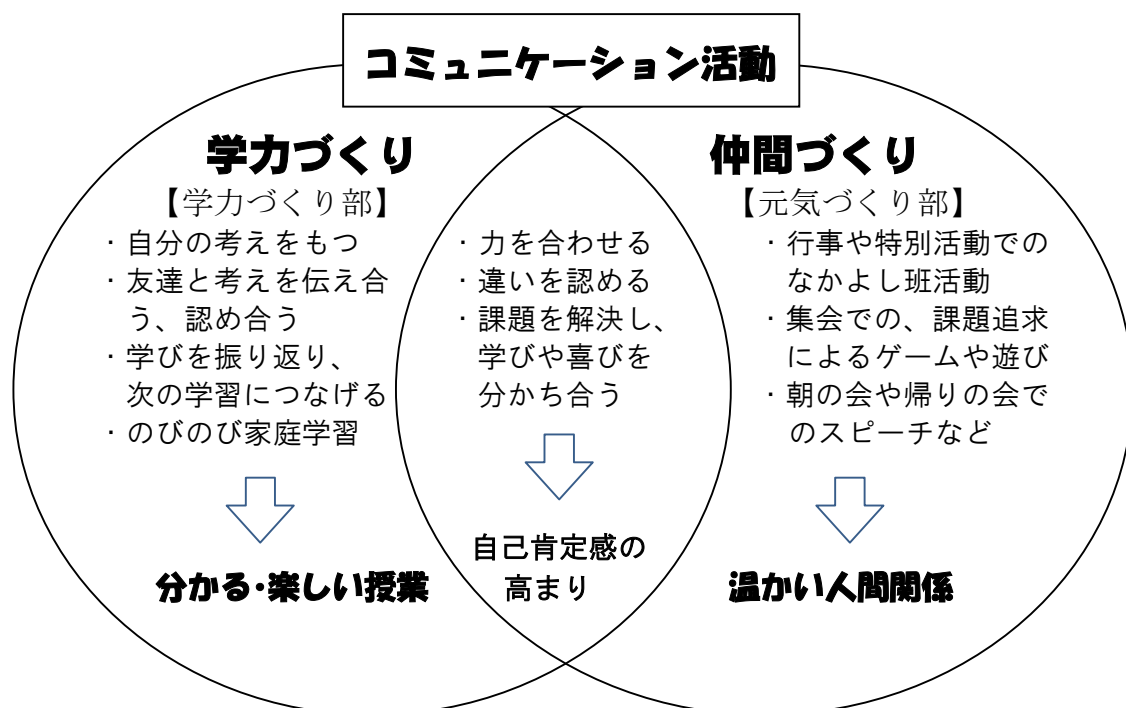
## ○人権教育にかかる取組の全体概要

長門市立浅田小学校は、平成23年度から平成24年度までの2か年、文部科学省の人権教育研究推進事業の指定を受け、地域の特性を生かし、自他共に尊重し合える子供を育成する学校人権教育の在り方について、研究を推進してきた。人権教育推進委員会を中心に研究の方針と取組内容を決定し、それに基づいて「学力づくり部」と「元気づくり部」とに分かれ、確かな学力の向上と温かい人間関係づくりを観点に、コミュニケーション活動に重点を置いた人権教育の取組を推進していくことにした。

### (1) 研究組織



### (2) 研究の取組図



日々の授業での学力づくり	特別活動等での仲間づくり
<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表の聞き方、話し方の約束</li> <li>・多様な方法による課題追求</li> <li>・自分の考えを見つめる時間の確保</li> <li>・一人一人の見取り表の活用</li> <li>・小グループで伝え合う活動の充実と工夫</li> <li>・自分や友達考えのよさへの気付きや認め合いの場の設定</li> <li>・学びの振り返り、評価活動</li> <li>・学習習慣の身に付け方と家庭学習の在り方</li> <li>・総合的な学習の時間の教材開発と地域の人材活用</li> <li>・体験学習と関連した道徳の授業</li> </ul>	<p><b>朝の会・帰りの会・特活タイム</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・音読や朗読の継続（言語感覚、表現力）</li> <li>・話題を決めてのスピーチ（1分間）</li> <li>・話題を決めてのフリートーク（10分）</li> <li>・ショートエクササイズ、アサーショントレーニング、アイスブレイク、ゲーム等</li> </ul> <p><b>行事・集会・学級活動</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小グループや異年齢集団による課題解決や振り返りの場の設定</li> <li>・<u>A F P Y * 1</u>を通して温かい人間関係の育成</li> <li>・アンケートや面接による教育相談の充実</li> <li>・地域の住民や他校児童との交流活動</li> </ul>
<p><b>校内環境づくり</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・丁寧な言葉や温かい声かけ ・明るいあいさつ ・認められていることを実感できる掲示物など</li> </ul>	
<p>↓</p> <p>自分を大切にするとともに、他の人の大切さを認め合える人権感覚を身に付ける 〔 自己肯定感・自己有用感（達成感・成就感・満足感） 〕</p> <p>↓</p> <p>他人の立場に立った想像力・コミュニケーション能力・人間関係を調整する力が育つ</p> <p>↓</p> <p>実践的な人権感覚をもった児童の育成</p>	
<p>* 1…やまぐちふれあいプログラム（Adventure Friendship Program in Yamaguchi）の略。 他者と関わり合う活動を通して、個人の成長を図り、豊かな人間関係を築くための考え方と行動の在り方を学び合う、山口県独自の体験学習法。</p>	

### 3. 特色ある実践事例の内容

<p>浅田小学校の特色ある実践事例として、元気づくり部の取組について紹介する。</p> <p>(1) 人権が尊重される仲間づくり</p> <p>① 学級での取組</p> <p>ア 朝の会・帰りの会</p> <p>始業前の朝の会では、通常健康観察や伝達事項の他、「今月の歌」の合唱や郷土の偉人「村田清風」の漢詩の朗誦を行ってきた。</p> <p>「今月の歌」は、音楽主任が選定した曲の他に、各学年の児童たちが「歌いたい曲」として選んだリクエスト曲も含まれ、1日の生活を始めるための意欲の向上を図ってきた。また、漢詩の朗誦は「清風学舎」の一環として行</p>
---

われ、単に朗誦するだけでなく、詩の意味から村田清風の郷土への思いや使命感を学び、自分たちが住んでいる三隅に対する愛情や誇りをもてるように取り組んでいる。

学級によっては、「今月の生活目標」を参考にして、1日の生活の目当てを話し合っ  
て決めたり、「ふわふわ言葉」の確認を行っ  
たりしている。第3学年では、児童相互の賞賛や反省を、「天使の木」として  
目に見える形で掲示している。



帰りの会では、生活目標や「ふわふわ言葉」についての反省を行い、1日  
の生活上の問題や翌日に向けての目当てを話し合っている。学級によっては、  
友達のよいところや助けてもらったことなどを話題にして、互いに認め合う  
活動を行っている。このことで、学級のまとまりを深め、生活の向上に向け  
て意欲をもてるようにしてきた。

## イ 特活タイム

毎週火曜日の始業前に設定されている  
「特活タイム」（15分間）を利用して、  
児童相互のリレーションづくりの活動（エ  
クササイズ、トレーニング）を行った。グ  
ループ・エンカウンターやソーシャルスキ  
ルトレーニング、AFPYなどから学級の  
現状に応じた活動を選んだり、担任が考え  
たりして、単に楽しさや勝敗のみを競い、楽しむのではなく、活動の最中に感  
じたことや、グループで工夫したことなどを活動後に話し合う時間を必ず設け  
ることで、仲間意識や集団の中での自分を見つめることのできる内容とした。



また、各学級が行った活動は、手順を示した簡単な説明書を「活動事例集」  
としてファイリングし、他の学年も手軽に使えるようにしている。

## ウ 学級掲示

人権が尊重される取組に関する事柄を掲示して可視化することにより、児童  
の実態に応じて適宜振り返ったり、自己評価を促したり、意欲を喚起したりす  
ることができると考えた。

平成23年度から、日頃よく使う言葉で言  
われるととても気持ちがよく、うれしくなる  
言葉を取り上げ、「ふわふわ言葉」として西  
側階段に掲示している。

平成24年度からは、朝の会・帰りの会や  
学級活動、道徳の時間などに関連させなが  
ら、各学級で児童の実態に合わせて人権に関



する掲示をし、仲間づくりの意識が高まるようにしてきた。人権に関わる道徳の価値項目と関連させたり、朝の会・帰りの会のスピーチと関連させたりして掲示している。また、毎月の生活目標とともに「今月のふわふわ言葉」を、帰りの会で自己評価させ、意識を高めるようにした。

## ② 全校での取組

### ア 集会活動での人間関係づくり

#### (ア) 取組の概要

全校で人間関係づくりに取り組む機会として、平成22年度後半から月初めの全校集会で20分程度、縦割り班での活動を実施した。集団の中での自分自身について、友達の気持ちや友達との関わり方について、考えることなどを目的としている。



#### (イ) 取組の様子

##### a インパルスゲーム

手を叩いた音を伝えていくため、手を叩いている友達に注目し、楽しみながら達成感、一体感を味わえるところによさがある。また、友達に意識が向くため、友達のよいところを見つけやすいという特長もある。



- ① 班で一人ずつ手を叩き、全員が叩き終える時間を計る。
- ② 目標タイムを設定し、話し合ったり、工夫したりしながら挑戦する。
- ③ 自分ががんばったことや友達のよい発言や行動を視点にして、振り返りをする。

##### b ネームトス

名前を呼びながら友達にボールをトスすることで一体感を感じることができる。また、名前は発言することに抵抗が少ないので、相手が誰でもコミュニケーションをとることができるというよさがある。



- ① 班の中で名前を呼びながら、友達にボールをトスする。
- ② 全員にボールを回す。回す順番は自由で、全員に回ったら座る。
- ③ 回す時間を計り、どうすれば早くなるか話し合い、挑戦する。
- ④ がんばったことや友達ががんばっていたことを取り上げて、振り返りをする。

#### (ウ) 成果と課題

縦割り班での活動を継続的に実施してきたことによって、振り返りの話



合いの際に意見の発表がよくできるようになった。また、他者を気遣ったり、失敗を受け入れたりして活動に取り組むようになって、全体的な雰囲気もよくなり、班内での人間関係は深まってきている。活動を通して考えたことや望ましいコミュニケーションの取り方を日常生活に生かせるようにしていきたい。

## イ 児童会による取組

### (ア) 浅田っ子の木

運営委員会で提案されて始まった「浅田っ子の木」に継続的に取り組んだ。「浅田っ子の木」とは、友達との関わりのよさを全校で認め合うことができるように、友達からしてもらってうれしかったことや、感謝の気持ちをカードに書いたものを掲示する取組である。



ランチルームから教室に戻るとき、児童が立ち寄りやすい場所に設置したことで、年間約500枚のカードが貼られた。

内容としては、自分のことを書いたものもあるが、友達との関わりでうれしかったことや感謝の気持ちを書いている児童が多い。全校の取組として行ったことで、学級の友達に対する内容だけでなく、異学年との関わりの中での内容も書かれていた。また、掲示されたカードを読むことによって、友達のよさを新たに知ることにつながった。年度末には、「たくさん花を咲かせてくれた子の表彰」を運営委員会が行っている。

### (イ) ふわふわ言葉

児童たちは、日常の何気ない会話の中で、あだ名や呼び捨て、乱暴な言葉を友達から言われた経験をもっている。そのことが、学校生活を嫌なものにしたり、自信をなくしたりする原因になっていることも多い。



そこで、逆に言われるとうれしくなったり、気持ちよくなったりする言葉を集め、「ふわふわ言葉」として意識的に使うように取り組んできた。「ふわふわ言葉」を児童たちから集め、校舎の西階段踊り場に掲示した。さらに、毎月の生活目標の中に組み込み、日頃から児童たちに意識付けるようにした。児童たちは「ふわふわ言葉」を使うことに慣れてきており、学級での帰りの会で、「今日、〇〇さんが、こんなふわふわ言葉を言ってくれて、うれしかった。」と、感想を述べ合う場面もあった。また、教科や道徳の授業においても、話し合い活動のときに「ふわふわ言葉」を意識した活動を行ってきた。この「ふわふわ言葉」を、児童の日常生活の中で意識化させ、互いに気持ちのよい1日が送れるようになればと思う。

#### 4. 実践事例の実績、実施による効果

人権教育の研究指定を受けて、子供たちが自尊感情を高めたり、自分や友達を大切にしたりしているかなどについて、どのように変容したかを捉えるために、3年生から6年生を対象にアンケートを実施した。このアンケートは、全教職員で話し合い、全部で28項目の質問項目を作成した。項目によっては、中学年や高学年に応じた内容を考えている。

質問項目(一部抜粋)	H23.6	H23.12	H24.6	H24.12
自分にはよいところがある。	2.6	2.8	3.3	3.3
学校生活が楽しい。	3.3	3.4	3.4	3.6
授業で自分の考えや意見を進んで話している。	2.7	2.8	3.1	3.2
授業で友達の見解をしっかりと聞いている。	3.2	3.2	3.4	3.6
授業で自分の言葉でわかりやすく進んで伝えている。(中)	2.8	2.8	2.9	3.1
授業で目的や場に応じた表現方法で互いに伝え合っている。(高)				
授業はよくわかる。	3.1	3.3	3.5	3.6
友達の思いや考えを大切に受け入れようとしている。(中)	2.9	3.2	3.3	3.6
互いの考えのよさを生かして、よりよい考えに高めようとしている。(高)				
友達に自分のがんばったことを認められている。	2.8	3.1	3.1	3.2
友達が困っているとき、やさしくしたり助けたりしている。	3.3	3.4	3.5	3.7
先生に自分のがんばったことを認められている。	2.8	3.1	3.2	3.4

\*上記の表は、各質問項目に対して、4：よく当てはまる 3：どちらかといえば当てはまる 2：どちらかといえば当てはまらない 1：当てはまらない で児童が回答し、よく当てはまるを4点として、平均を示したものである。

○結果的にどの項目も2年間で数値は上がっており、全体的に児童の学習に対する意欲や関心が高まり、友達に優しく接し、仲良く楽しい学校生活を送っているといえる。

○研究の始まった平成23年度当初は、自己肯定感が低く、自分が認められていると感じていない児童が多かった。しかし、自分にもよさがあることに気づき、認められていることに喜びを感じるとともに、友達のことにも認められるようになってきた。特に、友達、先生、家の人に認められるようになったという項目においては、大きく数値が上がった。

○授業で自分の思いや考えを伝えようと、話し合い活動に積極的に参加するだけでなく、友達の意見や考えも認めて受け入れながら、学習を進めることができるようになってきている。

##### (1) 児童の変容

人権教育の取組を通して、意図的にコミュニケーション活動を仕組むことで、互いを認め合い大切にしようとする意識も高まり、学校生活を楽しむ児童が増え

てきた。コミュニケーション活動とは、相手と直接話すことだけではない。文字で伝えたり、ジェスチャーや態度などで伝えたりすることもある。「浅田っ子の木」や「ふわふわ言葉」などの掲示は、児童の意見や気付きを大切に作っているため、児童の関心も高く、児童同士のかかわり合いを深める効果があった。

授業では、自分の考えをもって伝え合い、友達の意見や考えを大切に学習をつなぐことにも少しずつ慣れてきた。また、家庭学習の時間も増えつつあり、学習意欲も高まってきている。

なかよし班活動では、上学年が下学年に優しく接し、力を合わせて掃除をやり遂げたり、昼休みに仲睦まじくみんなで遊んだりすることが多くみられるようになった。また、委員会や係の仕事などを自主的に行い、朝の学習では、読書活動や学習に静かに取り組み、規律正しい学校生活を送っている。

## (2) 教職員の変容

2年間の研究指定を受けて、教職員は自分自身が人権意識を高め、一人一人の子供たちの指導に密に関わることで、教師自身の人権感覚を磨いてきた。

日々起こる子供たちの些細なトラブルや課題に対しても、教職員の共通理解のもと、家庭とも連携して対処してきた。特に、今日大きな問題となっているいじめについては、毎週、報告・連絡・相談等を迅速かつ丁寧に行い、子供の立場に立って解決に導く姿がみられた。

また、分かる授業、楽しい授業を目指して授業に臨んでいる。子供一人一人を認め、支援や指導に工夫を加えながら、互いの授業を頻繁に公開し、研鑽し合うことで授業力向上に取り組んでいる。

## 5. 実践事例についての評価

### (1) 学校評価アンケート（保護者対象）データの結果から

質問項目(一部抜粋)	H23. 11	H24.11
学校は、授業や行事などを参観する機会をよく設けている。	98%	100%
学校は、一人一人のよさや可能性を伸ばす指導を行っている。	79%	83%
学校は、思いやり・生命を大切にする心や、社会のルールを守る態度を育てている。	88%	90%
学校は、お子さんのよさや気持ちを理解し、気軽に相談に応じている。	75%	85%
学校は、いじめや非行をなくすため適切な指導を行っている。	68%	77%
学校は、学習に適した美しい環境を保っている。	90%	99%

\* 表中の数字は、4：よく当てはまる 3：ほぼ当てはまるを合計したプラス評価 %で示している。

\* 上記の表は、保護者の学校評価アンケートから、人権教育と最も関係の深い幾つかの項目を抜粋したものである。

〇いじめについての項目は、社会問題となった時期とも重なり、保護者の評価は高いとはいえないが、9月から家庭に児童の様子を尋ねるアンケートを実施し、定期的な職員研修を行いながら、いじめの早期発見や防止に努めている。



- 「子供のよさや気持ちを理解し、気軽に相談に応じている」という項目の数値は上がっているが、教員は更に児童一人一人の気持ちを理解するために個別面談を実施し、児童理解に努める必要がある。
- 保護者は、学校や地域行事等に協力的であり、結果から、地域と学校が密接に連携していることがうかがえる。

## (2) 保護者や地域住民の反応

学校での諸行事には、多くの保護者が参加し、運動会の表現運動、学習発表会当日の昼食づくり、PTA奉仕作業など、児童と一緒に学校を盛り上げていこうとする姿勢が高まっている。また、様々な地域の方が、「地域の方と遊ぶ日」や「浅田寺子屋」などの学習ボランティアに支援を惜しまず来校し、さわやかな笑顔で帰られる姿がみられるようになった。

ここでは、「浅田寺子屋」に焦点を当てて紹介する。

「浅田寺子屋」は、家庭学習の習慣の定着と質の向上を目指して、平成24年度から始まった。長門市内の運営協議会のメンバーなど、教職経験者等で三隅にゆかりの人たちの協力により運営されている。毎月2回、水曜日の放課後、地域の方が「浅田寺子屋」（浅田小内の図書室と図工室で実施）へ集まることになっている。

3年生以上の児童の希望者が集まり、主に宿題をする。教室とは異なる先生に指導してもらい、また学年の違う人と一緒に学習するというので、日頃の授業とは違った緊張感が児童にみられる。子供の自主的な家庭学習への意欲を高めることが第一の目的であるが、分からないところを質問したり、教えてもらったりする中で、人とふれあうことの素晴らしさを感じているようにも思える。また、ボランティアの方も自主的に教材研究をするなど意欲的な姿がみられた。



「浅田寺子屋」は、子供たちが主体性を伸ばす場であるとともに、ボランティアの方の自己研鑽の場ともなっている。

## (3) 今後の課題

研究の成果は、アンケートの数値だけに頼ることなく、児童や教職員の人権意識を更に高め、学力の向上や望ましい人間関係を築いていくことにある。これからも、一人一人の存在を認め合い、互いに人権を尊重した言動ができるという実践的な人権感覚を育てていかなければならない。そのため、次のような視点からの取組に重点を置いて、継続的に研究実践を行っていく。

### ア 授業づくりと仲間づくり

子供たちにとって、「学校が楽しい」と感じるのは、授業が分かり、友達と力を合わせて仲良く集団生活を送ることができたときである。したがって、分かる・楽

しい授業づくりと温かい人間関係づくりに取り組むことが重要である。これからも、コミュニケーション活動を大切にしたい、授業づくりと仲間づくりを更に深めていく必要がある。

### **イ 保護者との連携**

保護者の学校評価アンケートからも分かるように、学校教育に対する期待は高く、一人一人の子供の理解やいじめに関する意識については、教職員との意識の差があった。学校は、更に保護者との連携を密にし、誠意をもって個別指導や個別相談を行い、コミュニケーションをとっていく必要がある。

### **ウ 地域との連携と地域の教育力の活用**

浅田小学校区は、以前から地域の支援を受けた教育活動が展開されてきた経緯があり、学習支援などの人材が豊富で、地域全体が協力的であるという利点がある。今後は、コミュニティ・スクールとしても更に学校を地域に開き、地域とともに子供たちを育てる学校教育活動を行い、学校と地域が総がかりで、豊かな人権感覚をもった子供を育てていく必要がある。研究を通して、学校と地域との連携体制は整ってきた。今後は、こうした組織をいかに効果的に運用していくかが課題である。

### **エ 教職員の研修意欲の向上と実践**

教師の力量は、授業力で決まるといっても過言ではない。そのために、教師同士が互いに授業を参観し合い、自由な雰囲気の下で意見を出し合いながら授業改善をすることが大切である。授業研究はもとより、職員室でも気軽に話したり、相談したりすることのできる人間関係を深め、チームワークのもとに授業公開を続け、切磋琢磨していきたい。研究を通して、子供の人権を尊重するという基本姿勢は、教職員同士が互いを尊重することから培われることを再認識することができた。

## 【人権教育の指導方法等に関する調査研究会議によるコメント】

### 長門市立浅田小学校

「学力づくり」と「元気づくり」を二つの柱にしなが、コミュニケーション活動の全般的推進をはかり、子供たちの自己肯定感を高めるための取組が多様に展開されている点に特色がある。学力づくりは日々の授業を中心に、また元気づくりは特別活動等での仲間づくりを中心に行われているが、いずれも取組課題が極めて具体的に示されている点に工夫がみられる。また、コミュニケーション活動を話すことだけに限定してとらえるのではなく、文字で伝えることや、ジェスチャーや態度などの非言語的なコミュニケーションも意識的に位置付けられており、うれしい気持ちにさせる「ふわふわ言葉」が、帰りの会や学級掲示などで効果的に活用されていることも注目される。児童アンケートや保護者の学校評価アンケートにおいて、極めて高い評価が得られていることから、今後は、地域との連携を強化したり、教師の授業力を向上させるための具体的な取組を、人権教育の視点から更に充実させることが期待される。